

表1 出題問題の検討

不適切問題

問題	検討内容
<p>午後5 抗インスリン作用を有するのはどれか。 1. エストロゲン 2. プロゲステロン 3. hCG(ヒト絨毛性ゴナドトロピン) 4. hPL(ヒト胎盤性ラクトゲン)</p>	<p>本問は、択一式の抗インスリン作用を有するホルモンに関する知識を問う設問である。プリンシプル産婦人科学 第3版 産科編 メジカルビュー社 p97には「妊娠中はヒト胎盤ラクトゲン、プロゲステロン、エストロゲン、コルチゾールなどインスリン作用と拮抗するホルモンが増加する。」と記述されている。助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 第6版 医学書院p127にも「妊娠中は胎盤からのヒト胎盤性ラクトゲンhuman placental lactogen (hPL)、プロゲステロン、エストロゲンや、副腎からのコルチゾールなど、インスリンの作用に拮抗するホルモンの分泌が亢進する。」と、前掲書と同様の記述がある。さらに、糖尿病 母児管理のエッセンス 金芳堂 p32には「妊娠後半期、特にプロゲステロンの分泌増加の影響を受けて母体は著しいインスリン抵抗性を示す。」とある。ゆえに、選択肢「1. エストロゲン」、「2. プロゲステロン」、「4. hPL(ヒト胎盤性ラクトゲン)」が正答となる。正答を1つにするためには設問文中に「最も」を加筆し、「最も抗インスリン作用を有するものはどれか。」とすることが望ましい。</p>